



日々の活動内容を記録している日誌は活動開始時から毎日続いており、現在17冊目になる

方を対象にしており、参加者募集の案内を必ず新聞へ掲載するようにしています。「吾妻の真田道を行く」というテーマで開催した講座は非常に好評で、県内外から多数の応募があり、すぐに定員が埋まるほどの人気でした。

その他にも、より充実した観光ガイドを行っていきけるように、他県の観光ガイドの視察などを定期的にに行い、自分たちのレベルアップも図っています。

### 活動を認知してもらうために

活動を行う上で重要なことは、自分たちだけで満足せず、活動内

### 地域づくりのきっかけ

私は中之条駅前で喫茶店を営んでいます。以前から店を訪れた観光客に町の見所を尋ねられたり、旅館の斡旋を頼まれるなど、様々な相談を受けていました。

20代から奉仕団体に所属し、小学校への本の寄贈や施設への慰労訪問などのボランティア活動をしてきたこともあり、「町を訪れる観光客のために、いつか観光案内のボランティア活動をしたい」と



中之条観光ガイドボランティアセンター 湯浅 昌雄さん

考えるようになりました。そして、還暦を迎えたことをきっかけに、平成15年に本格的に観光案内の活動を始めました。

### 様々な形で伝える町の魅力

現在、52名のガイドが毎日交代で中之条駅構内の相談所に常駐しており、観光客の滞在時間やニーズに合わせて町の名所を案内しています。一昨年の群馬DCの期間中には、リゾートやまどり号に乗

容を地域の人たちに認知してもらうことです。そこで、地域の人たちが我々を町で見かけた時に意識してもらえよう、会員は黄色や緑色など、目につきやすい色のユニフォームを着て、活動を行っています。また、テレビ局や新聞社へイベントなどの情報を積極的に提供し、地域の外にも自分たちの活動を広く発信することを心がけています。

このように継続して活動を行っていくうちに、地域の住民から「町のために活動してくれて、ありがとうございます」と言われるようになりました。この活動により、観光客へのおもてなしの心を町全体で育てることができれば良いと思っています。

### 大切にしていること

私の信念は「無料で観光案内を行う」ということです。自分たちの町を案内するのに、観光客からお金など取れません。少しでも長く滞在してもらおうことで、この町のことを好きになってもらい、ま

車し、車内で沿線の観光案内を行いました。

観光案内の他にも、電車の待ち時間を楽しんでもらうため、駅の待合室の一面を「駅前ギャラリー」とし、写真や切り絵など、様々な作品を展示しています。「駅前ギャラリー」は企画から準備まで、すべて私たちが行っています。

さらに、中之条町や周辺地域の名所を巡りながら、その土地の文化や歴史を知ってもらう「ふる里再発見講座」を年に2回開催しています。これまでに、吾妻33観音や中之条町の巨木や滝などを巡る講座を開催しました。この講座は、地元住民だけでなく、広く一般の



今年3月で第69回を迎えた駅前ギャラリーは、観光客をはじめ地元の駅利用者にも好評

た訪れて欲しいと思っています。

### 全国各地から届く感謝の声

これまでの活動の中で、一番印象に残っているエピソードは、四万温泉に宿泊した観光客の忘れ物を、旅館や四方の派出所と連携して無事に持ち主に届けたことです。これは地域の強いつながりがあったからこそ出来たことだと思えます。後日、持ち主からお礼の手紙が届きました。忘れられない出来事です。

他にも、案内をした観光客の方からお礼の手紙が毎年たくさん届きますが、このような感謝の声をもらうことが活動する上でのやる気につながりますし、生きがいになります。

### おもてなしの心

やりたいことは数多くありますが、町の人だけでなく、様々な人たちとの出会いが私の財産なので、おもてなしの心で中之条町の魅力を伝え続けたいと思っています。

## 「おもてなしの心で町の魅力を伝え続ける」

中之条観光ガイドボランティアセンター 湯浅 昌雄さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第15回目は、中之条観光ガイドボランティアセンターの湯浅 昌雄さんにお話を伺いました。



地域づくり人物リレー 第15回

### 感銘を受けた本

「いい人生の生き方」(江口克彦著・PHP新書) という本です。自然の理法に即した工夫や信念が必要であり、「あたり前」の繰り返しこそが「いい人生」への近道である、と書いてあります。自分がこれまで体験してきたことが、教訓として一冊にまとめられていると感じました。若い人に読んで欲しい一冊です。

### 好きな言葉

「継続は力」という言葉です。続けることが信頼へ結びつくことを実感しています。



WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?

次号をお楽しみに!!